

# 特集

# 会社が変わる 整理・整とん術

職場における「5S」の重要性が叫ばれて久しい。「5S」とは「整理、整とん、清掃、清潔、しつけ」のこと。どれも当たり前なことだが、その当たり前がなかなか実践できていないのが多くの中小企業の実態ではないだろうか。社員の作業効率アップ、仕事へのモチベーションアップ、取引先や客へのイメージアップなど。職場全体が活性化され、それが収益アップにも反映されるのだ。きれいに片付いた環境には必ず「福」が舞い込む。年末の大掃除を機に、日ごろから整理・整とんを心掛けてみてはいかがだろうか。

## 「片付けるだけで職場は活性化します」

監修・指導：  
かたづけ士 小松易

ものがあふれ、雑然とした職場環境。それが、知らず知らずのうちに損を生み出していることに気付いているだろうか？「そんなバカな……!?」と思うなら、試しに整理・整とんしてみてもいい。職場の雰囲気が変わり、いろいろなことがうまくいき始めるはずだ。しかし、片付けるにも、その状態を維持するにもちょっとしたテクニックが必要。そ

のコツを企業のかたづけコーチングやコンサルティングを多数手掛けてきた小松易さんに聞く。

**たった二つを置いただけでものが増えていく**

あなたの会社はスッキリしていますか？それとも雑然としていますか？

会社に長く在籍している人ほど現状に気付かないものです。なぜなら、人は環境に慣れてしまうから。散らかっていても「こんなものだろう」と思ってしまうのです。自分の会社がどの程度片付いているのかを客観的に知りたければ、一番社歴の短い社員に聞いてみてください。環境に慣れていない分、正確に判断できるはず。もし、「雑然としてる」「ものが多い」と答えたなら、早速片付けに取り組みすることをお勧めします。

今、「面倒くさいなあ」「いつかやるからいいよ」と思った社長！ひよっとしてあなたのデスクの上はものであふれてはいませんか？未

決済の書類や会議資料などが、幾つもの山をつくっているなんてことはないでしょうか？もしそうなら、まずは社長自身が「片付けよう」という気持ちを持つことが大切です。会社のトップのデスク回りが散らかっていると、社員も自然とそれに倣います。もともときれいな好きな社員でも、だんだん片付けなくな

**雑然とした職場環境は負の連鎖を生む**

るのです。これが社員の共有スペースともなると、さらに雑然とすることは必至です。いつものものだから分らない書類のファイル、誰のものだから分からないダンボール箱などが書棚や倉庫に無造作に並び、誰も手が付けられずにたまっていきます。デスクにせよ、共有スペースにせよ、雑然とした環境は「たった二つのものをそこに置いた」ことから始まります。置き場所をつくってしまっただけで、一つが二つ、二つが三つ……ともの呼び込み、気付いたときには山と化す。それが職場にもが増えていくメカニズムなのです。



こまつ やすし  
1969年生まれ。日本初の「かたづけ士」。かたづけコンサルティング「スッキリラボ」主宰。個人や企業向けにコーチングやコンサルティング、新入社員向け研修、各種セミナーなどを開催。著書に『たった1分で人生が変わる片づけの習慣』（中経出版・12月17日発売予定）、『かたづけ名人のプロフェッショナルそうじ術』（アイ・イーシー）など

客の目に留まるスペースならまだしも、人から見られないスペースなら多少散らかっていてもいいのではないか。デスクの上で書類が山になっても、どこに何があるか本人が分かっていたら問題ない。そ